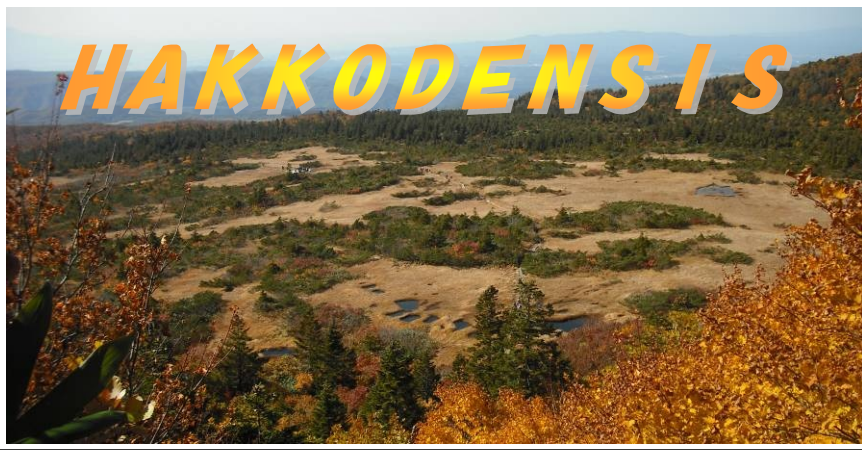


2011年11月22日

八甲田地区  
パークボランティア連絡会  
第81号 会報

事務局(発行者) 阿部幸子  
青森市中佃 2-15-5  
Tel・Fax 017-741-8068  
E-mail  
[pv.0514@ruby.plala.or.jp](mailto:pv.0514@ruby.plala.or.jp)

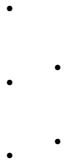


街路樹

からの落ち  
葉が木枯ら  
しに舞い、  
差し出した手のひらにフ  
ワリと乗る。それを両手  
に挿んで持ち帰り、本棚  
から一冊の文集を取り出  
し、葉先を伸ばしながら  
挟んだ。今から四十年前、  
娘がまだ幼かった頃のし  
ぐさが今の時期になると  
思いだされる。



今年の活動も反省会を  
もって無事終了となりま  
した。皆さんと共に楽し  
く活動できたことに感謝  
します。  
これから長い冬が始ま  
りますがゆっくりと自然  
体で行きましょう。  
『皆さんのご協力、有  
難うございました。』



八甲田地区PV連絡会・反省会

津川 裕一(青森市)

今年度のPV反省会が、十一月五・六日に十和田市焼山  
「森のホテル」で行われました。

参加者は環境省から四名、会員二十三名で有意義な時間  
を過ごす事が出来ました。

今回の会場となった「森のホテル」は旧かんばの宿で、  
民間会社にてリニューアルオープンしたホテルです。ネー  
ミングもロマンチックで、部屋・温泉・料理・接客等、感  
じの良いホテルでした。

反省会では福村PV会長の挨拶に始まり、十和田自然保  
護官事務所 北橋首席自然保護官の挨拶、講演のあと、今  
年度の活動を振り返って事務局からの活動報告、東島さん  
から井戸岳植生復元作業、山本さんから登山道パトロー  
ル・ロープ張り作業、夏堀さんから自然観察会について報  
告があり、活発な意見交換が行われました。私はあまり多  
く活動に参加できなかったため、自己反省することばかり  
でした。話し合いの行き着くところは結局のところ、管轄行政  
の意識や取り組みと予算の壁になります。この後、環境省  
から十五年間PVを続けられた六名の会員に感謝状が渡  
されました。

最後はみんなで楽しく、西館さんのリードでクイズ「ノ  
ーズ・ヒント」で遊びました。どの問題も最初のヒントで  
正解を出すのは難しいものでした。

「絶景百名山 八甲田山・秋」のビデオ鑑賞予定でしたが、  
機材の関係で大型スクリーンで見られなかったのが残念  
でした。



十八時から部屋を移して懇親会。

少し早い忘年会の雰囲気でお互い交流を深めました。自然を愛し、美しい八甲田山をいつまでもという熱い思いで繋がった仲間・同士の絆は、畳の上で一気に強まった気がします。



六日は天気予報では雨になっていましたが、心がけの良い人ばかりなので雨は降らず、溪流館から出合い橋を周回する秋の自然観察ウォークを楽しみました。今年は紅葉が遅く、まだ色づいた葉がたくさん残っており、晩秋にはまだ早い雰囲気でしたが、落ち葉舞う中を散策するのは一服の清涼剤でした。それにしても前田さんを始め皆さん樹木や草花等の知識が豊富で感心しました。



(皆さん お疲れさまでした！)

**【反省会での要望事項、他】**  
 反省会では、今年積極的に活動できた人、思うように参加出来なかった人、等、思いに違いはあっても、来年度に対する熱い要望・意見が出され、最後はみんなの気持ちが一つとなり大きな輪を作り上げた気がします。  
 (来年度は今年以上に頑張りましょう！)  
 ・来年度への要望・  
 井戸岳植生復元作業現場に大きな看板を立てたらどうか？  
 古くからの杭や番線の処理について。  
 登山道の木道に被さっている笹は刈っては駄目か。  
 P.V独自の活動として仙人岱に植生復元を実施したい。  
 葛沼遊歩道の整備をしたらどうか。  
 登山道のロープ手直しに人手が多い方がよい。(ピンの補充も必要)  
 ・注意事項・

葛沼へ向かう途中の枯れ枝が落ちてきそうで危険だ。



.....

反省会では、この他沢山の意見が出されました。今回の話し合いの内容を踏まえ、年度末の役員会で環境省と検討を重ね、二十四年度の活動に反映させたいと思います。

(事務局)

**【P.V活動十五年功労表彰について】**  
 この度、環境省から、十五年間に渡りP.V活動に協力していただいている六名の方々(大塚氏猪股氏・淡路氏・川村勝氏・氣田貢氏・阿部氏)に対し、感謝状の表彰がありました。表彰を受けられました皆さん、おめでとうございませう。これからもP.Vのリーダーとしてご指導宜しくお願いいたします。  
 (高田記)

「P.V十五年継続 感謝状を頂いて」

淡路 治雄(八戸市)

思い起こせば環境省のP.V会員募集の説明会に兄のサポートで参加しました。いざ参加してみると、雪のない季節は自然の気持ち良さを感じていましたが、冬に八甲田に行く時、集合時間の3〜4時間前に家を出なければならず青森の冬は怖かったです。

冬の活動でスキーも出来ない二人はスキー場に通い練習し、山スキー、スノーシューを揃えたり大変でした。

葛沼の観察会の時、寒さで木の裂ける音がした時は初めての体験にビックリしたら、先輩に「ボランティアがボランティアされてどうする」と注意されたり情けないボランティア活動でしたが、楽しい事も沢山ありました。

石ケ戸のトイレの建替えの際、十和田事務所関山所長に図面を見せられ、意見を言ってくれと言われ、今までのような建物だったので意見

を言わせてもらった処、図面を書きなおして今のトイレになったので、すごい事だと所長に感謝でした。

県内の高校生  
の案内をした時、  
一人の生徒さん  
にいくら説明して

も、何も見えないワカラナイと言われ困りました（他の生徒さんは解ってくれたのに）。ひょろたん沼で少し時間に余裕があったので沼を見ていたら真正面に魚が見え、岸の方から小さな蛾が飛んで来て、魚の上空に差し掛かったとき魚がジャンプしました。わずかに捕獲できなかったのですが、その子にもそれが見えていて、喜んでくれたのが本当に嬉しく、そのお陰でボランティアを続ける事ができてます。

その時は辞めようと思いましたが、良い人達にお会い出来た（まだまだ会えると思います）のでもう少し頑張りたいと思います。一緒に受賞した阿部さん、猪股さん、この日参加出来なかった大塚さん、川村勝美さん、氣田貢さんご苦労さまでした。これからも頑張りましょう。



..... 十月の活動報告 .....

「雨風あられの中のパトロール」

小堀 安雄（青森市）

十月二日、「八甲田山パトロール」活動に参加するため出かけた。酸ヶ湯ICで阿部さんに出迎えられる。「今日は中止。参加連絡のあった会員には昨日連絡した」とのこと。



その時点では、太陽が顔を出し、山頂を白くした大岳が見えていた。それにだまされた訳ではないが、私と同じく当日参加の山本・高橋さんと三人で、毛無岱経由で分岐からロープウェイに通じる宮様コースに敷かれたマット（県施工）の状況の調査ということ出かけることにした。ついでに木道用栈木を運ぶ。出発後程なく雨が落ちてきた。

下毛無岱に出ると見事な紅葉が眼前に広がる。上毛無岱への途中の急な長い階段から眼下の光景をカメラに納める。それから雨が強くなり、一帯ガスに覆われ、木道も滑りやすくなり、酸ヶ湯へ急ぐ感じの人たちに「滑るから注意して」と声かけをする。分岐からの道は前日までの雨もあり、大変なぬかるみ状態。三人とも長靴で正解だった。17カ所（うち2カ所は階段）のマットを確認する。私は初めて見る形状の物だ。木道に比べて歩き易い。ただ、マットが必要なぬかるみのひどい箇所が何カ所があるので手当をもらいたいと感じた。ロープウェイ山頂駅で昼食後、来た道を戻る。山頂は18メートルの風。あられもはげしく、そのため木道がより滑りやすく、また一部笹で下の路面が隠される危険箇所がいくつかあった。足下に注意してノンストップで酸ヶ湯へ。阿部さんから暖かいコーヒーをいただいて、今日の非公式(?)の活動を終えた。

..... 「井戸岳植生復元作業を終えて」 .....

嶋村 道（AR）

今年度の井戸岳植生復元作業は計4回行い、PVの方々の参加人数は昨年よりも10名多い延べ42名でした。度重なる悪天候の中の作業本当にお疲れ様でした。

協議会による復元作業は今年で7年目を数え、一つの転機を迎えたのではないかと思っています。それは、今までの作業で得られた経験を活かした新しい復元方法による実験がスタートしたことにあります。これまでのモニタリング調査の結果などから、植生マットのみで回復が期待できる訳では無いということが明らかになってきました。また、土留めの為に設置した矢板の下側で植生の回復が見られることも多く、マットと矢板を地形の条件に合わせて複合的に組み合わせ設置していくことが効果的であることが分かってきました。そこで今年度、矢板を風除けに用いたり、新しいタイプの植生マットを使ってみるなど、効果が現れた方法を他のエリアにも適用していく前提で、様々な方法を様々な場所で試して行くことになりました。

